

さいたま市 南区 浸水(内水)防災マップ

2つの写真は市内で浸水した事例です。



浸水(内水)防災マップとは?

この地図は、近年10年(平成13年度～平成22年度)の間に市民の皆さんから通報があった浸水情報をもとに、地形情報を考慮して設定した内水による浸水想定区域(浸水する範囲とその程度)及び避難場所などを示したマップです。

内水による浸水とは、雨の量が下水道などの排水施設の能力を超えるときや、河川などの排水先の水位が高くなったときに、雨水を排水できなくなり、浸水することです。

雨の降り方や土地利用形態の変化などにより、この浸水想定区域と異なる場合があります。

この浸水想定区域は、河川のはん濫を考慮していません。河川のはん濫したときに、浸水が想定される区域などを確認する場合は、洪水ハザードマップなどを参照してください。

- このマップでは、2段階に浸水する深さを色分けしてあります。あなたの住んでいる地域の浸水状況を確認してください。
- 浸水想定区域以外の最寄りの避難場所、安全に移動できるルートなどを確認しておいてください。浸水の状況が変化する場合もあるので、複数の避難場所、複数のルートを考えておきましょう。
- 雨がさらに激しくなり、河川のはん濫のおそれがある場合は、市から避難勧告・避難指示などが発令されます。はん濫した水の勢いは激しく、堤防近くの家屋は破壊・流出の可能性があり、人命に危険が及ぶことも考えられるので、最寄りの避難場所へ速やかに避難してください。

マップの見方・使い方



気象情報の入手と行動の目安

雨の強さと降り方の目安

降っている雨を観察することで、だいたいの雨量を知ることができます。危険な状態になる前に自分で判断して避難ができるよう、雨の降り方と雨量の関係を知っておきましょう。下記の記述は気象庁による「雨の強さと降り方」の目安を参考にして作成したものです。テレビやラジオなどから得た大雨に関する情報と、この「さいたま市浸水(内水)防災マップ」に示された浸水想定区域の情報を照らし合わせて活用してください。

予報用語 (1時間雨量)	やや強い雨 (10~20mm)	強い雨 (20~30mm)	激しい雨 (30~50mm)	非常に激しい雨 (50~80mm)	猛烈な雨 (80mm以上)
人を受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る (ユゴーと降り続く)	思わしくなるような猛烈な雨が降る
人への影響	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	傘をさしてもぬれる	傘は全く役に立たなくなる	傘は全く役に立たなくなる	傘は全く役に立たなくなる
屋内 (木造住宅を想定)	雨の音で話し声がよく聞き取れない		寝ている人の半数くらいが雨に気がつく		
屋外の様子	地面一面に水たまりができる	道路が川のようになる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる		
車に乗っている	ワイパーを速くしても見づらい	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる	車の運転は危険		

行動の目安

情報収集	予報・警報等に注意	避難に関する情報に注意
気象情報の収集 雨の継続中は、地域の様子に注意		
自助 自分で行える予防措置等	河川や水路等注水を要する箇所等に近づかない	土のう等の準備 低地部にある車の移動
自助 自分で行える予防措置等	状況により自主防災組織の活動への協力	状況により災害時要援護者への支援に協力

大雨のときの行動の目安を書いておいたよ。
雨の降り方や地形・土地利用などの状況によって地域の危険度が変わるから、雨の降り方や周囲の状況をよく見て、冷静に判断して行動しよう!



日頃からの心がけ

水害に強いまちづくり

いつ起きてもおかしくない水害へ備えるためには、行政(公助)だけでなく、市民の皆さんが防災に対する意識を常に持ち、防災対策に取り組むこと(自助)が重要です。さらに、地域の人々のつながりを中心とした地域防災力(共助)が、水害発生時における被害の軽減に大きな効果を発揮します。「みんなが手を取りあって取り組む水害に強いまちづくり」が必要です。

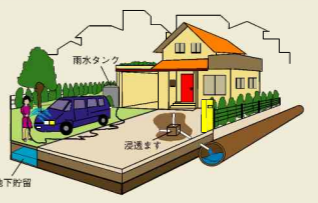


各家庭で備えましょう 自助

水害に備えて

地域に降った雨は、一部は地面に浸透し、残りの大部分は下水道や排水路を通過して河川に流れ込みます。周辺の土地利用状況が変化(都市化等)して、雨水の浸透する量が減ると、短時間で下水道などへ雨水が集中し、浸水が発生しやすくなります。浸透施設や貯留施設を設置し、雨水が下水道などに集中しないようにすることが有効です。

土地が周辺より低い場所や、地下室などを設置する場合には、浸水に対して安全になるように、自助対策を行うことが必要です。土のうを常備し、緊急時に積み上げるなどの対策も有効です。緊急時に、すばやく対応できるよう、防災訓練や避難訓練に積極的に参加しましょう。



家庭内での準備

- 必要最小限の非常用持ち出し品を準備しましょう。(日頃からの準備が大切です。)
- 懐中電灯や携帯ラジオ、予備の電池も準備しましょう。
- 生活用水を貯めておきましょう。
- 避難場所までのルートをあらかじめ決めておき、安全に通行できるかを実際に歩いて確認しておきましょう。
- 近くの雨水ます周辺の清掃にご協力をお願いします。

簡単な浸水の防止方法

- 水深が浅い段階なら、家庭にあるごみ袋、レジャーシート、プランターなどを活用した応急処置で対応が可能です。あくまでも水深が浅い初期の段階で行うものです。危険を感じる前に早めに避難しましょう。**
 - (ごみ袋を利用)
 - 大きめのごみ袋などを二重にし、中に半分程度の水(ふるの残り水などが便利)を入れ、すき間なく並べます。段ボールに入れて連結すると、強度が増し、積み重ねることもできます。
 - (シートを利用)
 - 土を入れたプランターを横に並べ、レジャーシートを巻き込んで補強します。プランターの代わりに水を入れたポリタンクや重くしたビールケースなども利用できます。



避難時の注意点

集中豪雨などにより、浸水が急起こることがあるため、早めの対応を心がけましょう。水深20センチメートル程度でも水の流れによっては、歩行が困難になります。高齢者や子供には、大変危険です。無理せず、高所で救助を待ちましょう。

- ### 正確な情報収集と自主的避難を
- ラジオ・テレビで最新の気象情報、災害情報、避難情報に注意しましょう。
 - 雨の降り方や浸水の状況に注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。
- ### 避難の呼びかけに注意を
- 危険が迫ったときには、市役所や消防団から避難の呼びかけをしましょう。
 - 呼びかけがあった場合には、速やかに避難してください。

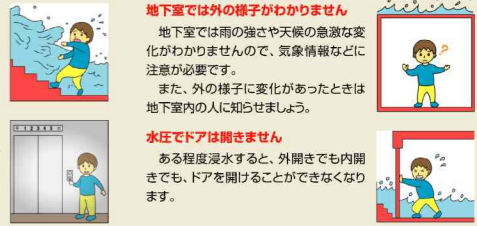
- ### 動きやすい服装、2人以上での避難
- 避難するときは、動きやすい服装で、2人以上での行動を心がけましょう。
- ### 高齢者などの避難に協力を
- 高齢者や子ども、傷病者など災害時要援護者は、早めの避難が必要です。
 - 周囲の方々には避難に協力しましょう。

- ### 自動車での避難は控えて
- 自動車での避難は緊急車両の通行の妨げになりますので、特別の場合を除きやめましょう。
 - また、堤防や道路に自動車を放置すると、水防活動の妨げになりますのでやめましょう。
- ### もしも、逃げ遅れたら
- 近くの丈夫な建物の3階以上に避難して救助を待ちましょう。
 - 住宅の二階部分でも場合によっては危険な場合があります。

地下道などの注意を要する場所

- 市内には道路などの立体交差部が多くあります。とくに、浸水時などに水深が大きくなると予想される地下道などは、避けて避難行動をとることが必要です。

- ### 地下空間の危険性
- 地上が冠水すると一気に水が流れ込んできます。換気口や採光窓など、思わぬところから水が入ってくる可能性があります。また、流れ落ちる水で階段は登れません。
 - 地下室では外の様子がわかりません。地下室では雨の強さや天候の急激な変化がわかりませんので、気象情報などに注意が必要です。また、外の様子に変化があったときは地下室の人に知らせましょう。
 - 浸水すると停電するおそれがあります。停電すると電灯が消えて真っ暗になります。なお、エレベーターは使えません。
 - 水圧でドアは開きません。ある程度浸水すると、外開きでも内開きでも、ドアを開けることができなくなります。



関係機関の連絡先

- ### 浸水に備えて
- 防災対策全般に関すること 総務局危機管理部防災課 電話番号 048-829-1126
- ### 浸水が発生したとき
- 住宅の浸水や道路冠水が発生したとき 南区役所 電話番号 048-838-1111
 - 避難場所の開閉状況を確認したいとき 総務局危機管理部防災課 電話番号 048-829-1126
 - 緊急性がある場合、救急車や消防隊の活動が必要なとき 消防局 電話番号 119
- ### 浸水被害を受けたあと
- り災証明の発行について 南区役所総務課 電話番号 048-844-7123
 - 冠水した道路の消通について 南区役所くらし応援室 電話番号 048-844-7136
- ### その他
- その他のお問合せ さいたまコールセンター 電話番号 048-835-3156

わが家の防災メモ

わが家の避難場所1	家族の集合場所
わが家の避難場所2	災害時の連絡先

名前	血液型	電話番号	会社・学校名	会社・学校の連絡先
	-	-		
	-	-		
	-	-		
	-	-		

災害時の連絡方法

- ### 「171」災害用伝言ダイヤル
- *「171」をダイヤルし、利用ガイダンスにしたがって伝言の録音・再生を行ってください。
 - *録音された伝言は被災地の方の電話番号を知っているすべての方が聞かれます。
 - *提供開始や録音件数等、提供条件についてはNTTで決定し、テレビ・ラジオ等でお知らせします。
 - *詳しくは...NTT東日本 災害用伝言ダイヤル <http://www.ntt-east.co.jp/saiga/>
- ### 携帯電話災害用伝言板サービス
- *震度6弱以上の地震などの大きな災害が発生した時に、携帯電話・PHSを利用して自身の安全情報を登録、家族や友人の安全を確認することができます。
 - *それぞれの携帯電話・PHSの「トップメニュー」から「災害用伝言板」を選択して下さい。
 - *他社携帯・PHSおよびパソコンなどからも、家族や友人の安全情報をご確認いただけます。
- 携帯・PHSおよびパソコンからの安全情報の確認方法
- NTTドコモ <http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi>
 - au by KDDI <http://dengon.ezweb.ne.jp>
 - ソフトバンクモバイル <http://dengon.softbank.ne.jp>
 - イー・モバイル <http://dengon.emnet.ne.jp/>
 - ワイコム <http://dengon.wilcom-inc.com>

情報の伝達

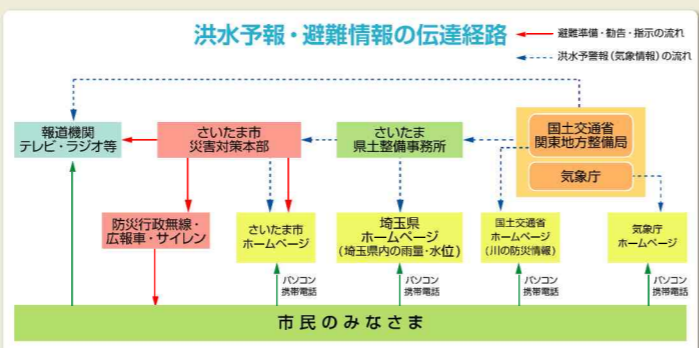
災害時に備え、気象情報や防災知識をインターネットで入手

インターネット、ラジオ、テレビなどで、リアルタイムで正確な情報を入手することができますので、積極的に活用しましょう。避難指示がでたときは、その指示に従い最寄りの避難場所に避難してください。

- さいたま市ホームページ (パソコン) <http://city.saitama.jp/>
- 埼玉県内の雨量・水位 (パソコン) http://micos-sa.jwa.or.jp/metro/saitama/pc_web/
- 国土交通省(リアルタイム)川の防災情報 (パソコン) <http://www.river.go.jp/>
(携帯電話) <http://river.go.jp/>
- 気象庁ホームページ (パソコン) <http://www.jma.go.jp/jma/>

情報を収集して、冷静に判断しましょう

激しい降雨が継続すると、内水による浸水から洪水(外水はん濫)に移行する場合があります。気象、河川に係わる警報や避難情報にも充分注意し、あわてず冷静に判断して行動しましょう。



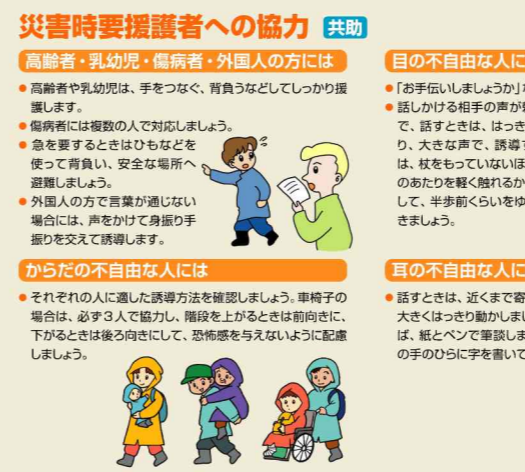
避難情報の種類	とるべき行動
避難準備情報 避難しなくてはならない状況になる可能性があるため、その準備を促す発令です。	<ul style="list-style-type: none"> いつでも避難できるように、避難の準備をしましょう。 ラジオやテレビの放送、市役所からの広報に注意しましょう。 高齢者や子どもは、早めに避難しましょう。
避難勧告 市民に避難の開始を勧める発令です。	<ul style="list-style-type: none"> お互いに助け合って、近くの避難場所に、速やかに避難を始めましょう。 自動車での避難はできるだけやめましょう。
避難指示 市民に対する避難の命令を行うものです。	<ul style="list-style-type: none"> 近くの避難場所に直ちに避難しましょう。

地域を守るために

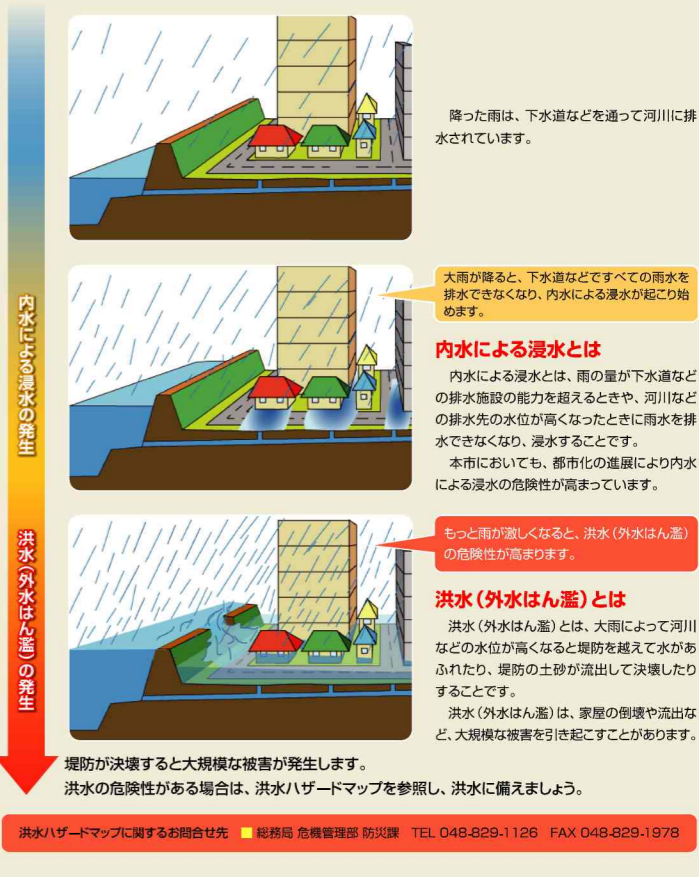
自主防災組織の活動 共助

災害による被害を最小限におさえるには、まず自分と家族が無事であることが大切となります。それから、地域住民が協力して負傷者等の救出救護などを行うことが重要となります。そのために自分たちのまちは、自分たちで守る「自主防災組織」が必要となります。この自主防災組織は、地域住民が自主的に連携して防災活動を行う団体のことをいいます。日頃から防災知識の普及、地域の安全確認、防災資機材の備蓄、自主防災訓練などを行い、災害時には救出救護、安否確認、炊き出しなどを地域で協力して行います。

- ### 近隣と協力し救助活動
- 救助を求める通報を行う。
 - 自主防災組織の活動に協力する。
 - ラジオなどにより情報を確認する。
- ### 自主防災組織に協力し、秩序ある避難生活
- 助け合いの心を持ち、協力し合う。
- ### 災害時要援護者への協力 共助
- #### 高齢者・乳幼児・傷病者・外国人の方には
- 高齢者や乳幼児は、手をたたく、背負うなどしてしっかり保護します。
 - 傷病者には複数の方で対応しましょう。
 - 急を要するときはひもなどを使って背負い、安全な場所へ避難しましょう。
 - 外国人の方で言葉が通じない場合には、声をかけて身振りで意思を伝えます。
- #### 目の不自由な人には
- 「お手伝いしましょうか」などと、まず声をかけましょう。
 - 話しかける相手の声が聴き取りやすいように、はっきりゆっくり、大きな声で、誘導するときは、杖をもっていないほうのひじのあたりを軽く触れるか、腕をかくして、半歩前くらいをゆっくり歩きましょう。
- #### 耳の不自由な人には
- 話すときは、近くまで寄って相手にまっすぐ顔向け、口を大きくはっきり動かしましょう。口頭でわからないようであれば、紙とペンで筆談しましょう。紙やペンがなければ、相手の手のひらに字を書いて筆談しましょう。



浸水発生メカニズム



【局地的大雨について】

近年、全国的に増加している局地的大雨は、報道機関などで「ゲリラ豪雨」と呼ばれ、他の地域が小雨であっても、ごく限られた区域で短時間に激しい雨が降ることです。なお、大雨や洪水の注意報・警報が発表される気象状態であっても、急な強い雨のため下水道や河川が短時間で増水するなど、急激な状況変化により重大な事故を引き起こすことがありますので注意が必要です。